

部活動安全対策マニュアル

岩手県立盛岡聴覚支援学校

1 基本的な安全対策の考え方

(1) 学校における安全管理体制の構築

運動部活動については、全教職員・外部指導者・生徒が部活動の意義や活動方針を理解するとともに、部活動におけるルール作りや情報共有など、関わる全ての者の協力体制の下、組織的に取り組む。部活動前には、安全チェックリスト等による使用施設、設備、用具等の安全点検を行い、また、緊急時における心肺蘇生やAED、エピペン等の救急対応を学ぶ校内研修の実施など、事故発生時の対応力を高め、安全管理体制を構築する。

(2) 事故防止のための安全に配慮した適切な指導

顧問等は練習中や試合中の不慮の事故を避けるため、生徒の健康観察を行い、健康状態を把握した上で、対象となる個々の生徒の発達段階や能力に応じて安全に配慮した適切な指導を行う。生徒の体力や運動技能に合った無理のない指導計画を立案し、部全体の共通理解の下に活動することが大切である。顧問等は、指導する種目にどのような危険が内在するかを把握し、生徒に対しても安全に関する知識や技能を身に付けさせ、安全に配慮した活動ができるような指導をする。また、部活動は、顧問立ち会いの下に行うことが原則であり、やむを得ず直接練習に立ち会えない場合には、あらかじめ顧問の教員と生徒との間で約束された安全面に十分に留意した内容や方法で活動することとし、部活動日誌等により活動内容を把握する。このためにも、日頃から生徒が練習内容や方法、安全確保のための取り組みを考え、理解しておくことが望まれる。部顧問以外の教員が立ち会う場合や生徒が自主的に活動する場合は、危険性の低い内容とし、練習内容や練習方法を具体的に指示した上で行う。運動部活動の実施に当たっては、怪我や事故を未然に防止し、安全に活動することを大前提とする。

(3) 日常の活動に潜む危険性（中学部・高等部の部活動が施設を共用する際の留意点）

日常的にグラウンドや体育館などの活動場所を複数の部活動が共用して練習するような場合、他の部活動の練習や生徒に対して注意を払う意識が薄れたり、配慮すべき安全対策を怠ったりすることがある。そこで、練習場所を防護（防球）ネットやカラーコーンなどにより明確に活動場所を区分して混在しないようにしたり、ボールやシャトル

などの用具が他の活動場所に飛んでいった場合の合図の確認を双方で行ったりする必要がある。複数の部が施設を共用する場合は、関係する部間で禁止事項や活動の制限事項などについて、事前に共通理解すること。練習開始時には、禁止事項等について各部で確認し、練習後には、ケアレスミスや危険を感じたような出来事等（ヒヤリハット事例）について、顧問等と生徒同士で報告し合い、次の練習に生かすとともに、他の部と情報共有をする

（４）施設・設備・用具等の安全点検と安全指導

運動部活動は、学校施設・設備・用具等を活用して行われるものであり、共用するものであることから、活動に当たっては、顧問等と生徒が共に施設・設備の安全確認を行うことが大切である。顧問等は、生徒に施設・設備・用具の適切な使用と点検及び確認の徹底が事故の未然防止につながることを認識させ、定期的な安全確認・点検を徹底する。（床板のささくれ、防球ネット等の破損、支柱ネジ緩み等）

2 運動部活動における安全対策状況調査結果を踏まえた安全対策のポイント

(1) 陸上競技

<p>【 予想される危険 】</p> <ul style="list-style-type: none">・聞こえにくさに起因する人や物との接触、衝突・熱中症や脱水症状・他の種目と練習場を共用で使用するにより、投てき物が生徒に衝突する危険性・後ろ向きの準備局面から投動作に入る場合の直前の前方確認不足・網状の防護ネットには「たわみ」があり、投てき物が当たった場合に1～2mほど伸びるので、ネット間近にいることの危険性・ストレッチやウォーミングアップ不足による負傷
<p>【 事故防止対策 】</p> <ul style="list-style-type: none">・周囲の確認の徹底、安全確保・適切な水分補給、活動前の体調の把握・他の部活動や種目等と時間帯や練習場を分けるなどの対策・サークル以外では試技をしない。・投てき者は確実に周囲の安全を確認し、大声で「行きます」又は「投げます」と周知し、必ず自ら前方と周囲の者の反応を確認する。すべての安全が確認できた時に初めて投てき動作に入る。・周囲の者は投てき物が落下するまで投てき物から目を離さない。・十分なウォーミングアップとストレッチ・指導者の応急処置や緊急時対応の確認
<p>【 ヒヤリハット事例 】</p> <p><u>高等部陸上競技部の事案</u></p> <ul style="list-style-type: none">・練習の中で、ミニハードルを使用したハードルをまたぐトレーニングを実施していた。一人の女子生徒がハードルをまたぐ際に足を引っ掛けて転倒し、膝の打撲と出血を負った。 <p><u>原因と対策</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ハードルの置く向きが、本来とは違う倒れにくい状態でおかれていたことで、足を引っ掛けてもハードルが倒れずに転倒につながったものと推測される。その日のうちに、生徒にはハードルの置き方について再確認した。また、翌日の朝には高等部職員全員に生徒と同様ハードルの置き方について説明した。

(2) バドミントン

<p>【 予想される危険 】</p> <ul style="list-style-type: none">・聞こえにくさに起因する人や物との接触、衝突・ラケットの接触による負傷等・熱中症や脱水症状・周囲の確認不足による生徒同士の接触や支柱との衝突・ストレッチやウォーミングアップ不足による負傷
<p>【 事故防止対策 】</p> <ul style="list-style-type: none">・周囲の確認の徹底、安全確保・危険なプレーを未然に防止するための指導（ダブルスの動き方）・適切な水分補給、活動前の体調の把握・活動前の周囲の確認・十分なウォーミングアップとストレッチ・指導者の応急処置や緊急時対応確認
<p>【 ヒヤリハット事例 】</p> <p><u>中学部バドミントン部の事案</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ダブルスの練習をしていた際に、ペア2人の中間地点にシャトルが落ち、ショットを打とうとしたラケット同士が強く接触してしまった。 <p><u>原因と対策</u></p> <ul style="list-style-type: none">・本校は、聴覚障がい者を有する生徒を対象とした学校であり、その場での音声でのやり取りが難しい側面もある。対策として、ダブルスのフォーメーションや中間地点にシャトルが来た場合の対応の仕方について確認を行った。

(3) その他

- ・他の人と組み合うなど接触を伴う活動に留意する。
- ・種目の特性や活動内容に応じた安全対策を講じて行う。
- ・気象状況の変化に応じた適切な活動を行う。

3 部活動における事故防止のためのチェックリスト

<p>① 学校における安全管理体制の構築</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の部活動方針について理解しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 部活動における安全対策マニュアル等を整備しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 活動目標を明確にした上で適切な指導計画を作成しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒の健康状態に配慮した練習日数や練習時間が設定されているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 競技等の特性を踏まえ、それぞれの特有の危険性に配慮した適切な活動内容を設定しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 顧問不在時の対応のルールを決め、指導体制や監視体制ができているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 連絡通報体制、救急体制は整備されているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 救助用具が適切に配置されているか。</p> <p><input type="checkbox"/> AEDの使用を含む救急法等の職員及び児童生徒の研修（講習）を実施しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> AEDの設置場所の把握やAEDの携行について適切に実施されているか。</p>
<p>② 事故防止のための安全に配慮した適切な指導</p> <p><input type="checkbox"/> 健康観察により、生徒の心身の健康状態の把握に努めているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 競技等に適した準備運動や補助を行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 段階的指導（体格差・体力差や個人の能力等に配慮した指導）をしているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 気象状況の変化に応じた適切な活動になっているか。（気温、天候、日没時 等）</p> <p><input type="checkbox"/> 休憩や水分及び塩分補給など、適切に行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 顧問不在時の自主的な練習時における内容（基本練習に限るなど危険性の低い内容等）を徹底しているか。</p>
<p>③ 日常の活動に潜む危険性（複数の部活動が施設を共用する際の留意点）</p> <p><input type="checkbox"/> 同一場所で複数の部活動が活動する場合の練習場所の分けや時間帯をずらすなどの工夫がされているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 体育館・グラウンド等を共用または隣接した場所で活動する際のルールを明確にしているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 活動施設の状況に応じた適正人数及び活動内容になっているか。</p> <p><input type="checkbox"/> ヒヤリハット事例の情報共有が適切に行われているか。</p>
<p>④ 施設・設備・用具等の安全点検と指導</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に点検を実施しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 活動場所に危険物を置いていないか。</p> <p><input type="checkbox"/> 用具・器具等が正しく設置されているか。破損はないか。</p> <p><input type="checkbox"/> 固定する必要がある用具・器具がしっかりと固定されているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 用具管理の指導を徹底しているか。</p>

・このマニュアルは、令和6年11月18日より施行する。